

JJA自己改革



～笑顔いっぱいの「ありがとう」のために～
For Your Smiles, For Your Thanks,

JA利根沼田

【広報活動】

○女性部・青年部

女性部・青年部活動を通じて地域住民や子どもたちにJAの役割や理解促進を図っています。



▲女性部による消費者との交流（南部・片品農業まつり）



▲青年部による田植えの指導

○コミュニティ版広報誌の発行

年2回、新聞折込により約3万部を発行することで、普段JAを利用しない幅広い方々にもわかりやすくJAが展開する事業や活動について周知しています。



▲コミュニティ版広報誌

○少年学童軟式野球大会（JAカップ）

参加賞や副賞を提供し、地域の子どもたちを応援するとともに、主会場へ横断幕を掲げ、JAイメージの向上と米の消費拡大を呼び掛けています。



▲副賞の「田んぼの王様」授与

【職員教育】

○役職員行動規範の改定

自己改革を推進するため、職員教育を第一と考え、役職員一人ひとりが日常的に自覚を持ち、組合の一員であることを誇りに思い、健全に維持・発展していくことを目的に意識して行動すべきことを見直しました。



▲役職員行動規範



【農業者の所得増大】

○マーケティング戦略課の設置

組合長がトップセールスに市場に出向く他、マーケティング戦略課が中心になり、契約的販売拡大など市場流通の有利性を活かす取り組みを展開しています。また、加工・直売所事業など生産から販売まで一貫した対応を図っています。

○営農専門担当者へのタブレット端末の導入

2016年から営農専門担当者へのタブレット端末の導入・運用を始めました。担当職員は端末を常に携帯し、訪問先の農家や畑で資材の注文や在庫照会、供給履歴の確認など、営農に関する様々な情報を迅速に生産者へ繋げています。

○生産コストの削減

生産資材の購買において平成29年度大口奨励として750万円余を支出しました



▲タブレット端末を操作するJA担当者



【農業生産の拡大】

○作業効率を高めた施設の展開

18年度に片品トマトセンターをリニューアル稼働。19年度には白沢トマトセンターもリニューアル稼働して作業効率や処理能力が向上します。また、白沢トマトセンターでは稼働に伴い新規出荷者の募集を周知するなど、各種営農関連利用施設の展開により農業生産の拡大を進めます。

○生産基盤の確保

- 農産物直売所の運営を通じて、定年後に農業を取り組む希望者など、小規模農家の農業生産も支えています。
- 外国人技能実習生の受け入れ機関として、地域農業生産の維持拡大に貢献しています。
- 農業求人サイト「第1次産業ネット」を管内の正組合員が無料で利用できるサービスを開始することで労働力の確保を支援します。



▲改修した片品トマトセンター



▲最盛期には約300人の実習生を受け入れ

【地域の活性化】

○食農教育や消費拡大運動の展開

10年目を迎えた「親子農業体験」では体験を通じて食を支える農の役割や大切さを伝えていきます。小学生を対象にした地元食材を使った料理教室で地産地消や、JAオリジナルブランドの消費拡大運動に取り組んでいます。



▲東小わくわく体験活動



▲親子農業体験（昼食作り）



▲親子農業体験

○金融移動店舗車の運行

店舗の統合により最寄りの支店まで来店することが困難な組合員の方にも質の高いサービスを提供するために平成28年11月から稼働しました。貯金の入出金の他、定期積金の掛込、公共料金や税金の収納ができます。



▲金融移動店舗車を各地域で運行



○農業まつりの開催

農産物の共進会や地元農畜産物の販売を始め、会場ごとに趣向を凝らしたイベントを行い地域住民と「農」との架け橋づくりに取り組んでいます。



▲8会場で農業まつりを開催

○校外学習等の受け入れ

農業やJAへ関心や理解を深めてもらうため小学校の校外学習や中・高校生の職場体験を積極的に受け入れています。



▲直売所や選果場で中高生を受け入れ